



## 学校教育と学校評価

四天王寺高等学校  
四天王寺中学校  
学校評価検討委員会  
委員長 川瀬 武比古

学校評価は文部科学省が教育全体を見つめ直そうという意図で実施にふみきました。その骨子は生徒・保護者・教師が三位一体となり、生徒がよりよい教育を享受できるようにという点にあります。そのためには教育活動の成果を検証して組織的・継続的な改善を図り、そして学校設置者および保護者も含めた学校づくりを進めていくことが重要だと考えます。本校の「学校評価」の取り組み・実施も、平成20年4月以来9年が過ぎ、平成29年4月で10年目を迎えようとしています。

学校評価とは具体的には

目標設定 (Plan) → 取り組み (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Action)

というPDCAサイクルを、より良い教育活動に向けて毎年展開し、改善を図っていくということです。すなわち「評価」は評価が目的ではなく、将来にわたって学校が充実した活動ができるための、また学校が元気になるための手段なのです。

本学園では教育方針（目標）に則り、上記のサイクルを実施し学校評価を行うものですが、28年度は、27年度までを踏まえ、大幅にアンケート項目の集約をしました。

自己評価は、過去3年間を通して評価が4.0以上である項目はなるべくまとめ改善達成項目としてとらえ、その上で27年度の「次年度目標への反映」を可能な限り項目に反映するように変更しました。尚、項目のアンケート順は教育目標の順に沿ったものに変更しています。

生徒学校評価も、並び順とも概ね教員自己評価に準じますが、教員自己評価と同じような項目で生徒に尋ねることが出来るものは、なるべくそうなるようにしています。これは両者の指標を比較することでより評価をしやすくするためです。さらにアンケートの文言は、可能なものはなるべく教育目標に沿うような表現に変えました。

報告にあたり、大勢の方々のご協力に抛りましてここに平成28年度のご報告が出来ますことを心より御礼申し上げますとともに、本校における教育の改善・充実につながる資料となり、今後も関係皆様のお力添えを頂けますよう、お願い申し上げます。

## 1. 教育目標

四天王寺学園の設置母体である四天王寺は、推古元年（593年）、聖徳太子によって建立された日本仏教最初の大寺である。聖徳太子は四天王寺で仏教精神を礎とし、世の中の平和や繁栄の実現に貢献すべき人間育成を大志とした「四箇院の制」（悲田院・療病院・施薬院・敬田院）を設けられた。その敬田院が、慈悲救済を使命として生きる、立派な人格者を育成するという教育事業にあたる。

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩提處」であり、菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割であり、教育目標である。

聖徳太子の和のご精神を礎とする信念ある女性の育成をはかる。

- (1) 円満で深い人間性をそなえた女性を育てる。
- (2) 将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力を養成する。
- (3) 個性を充分伸長できる教育を行う。

## 2. 中期的目標 ～P l a n～

- (1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る。
  - (ア) 学力の向上を通して冷静で柔軟な思考力を身につけさせる。
  - (イ) 毎日の活動や部活動・学校行事などを通じて協調性を育成する。
  - (ウ) 上記を通して四恩に報いる心、感謝の心、他を思いやる心を涵養する。
  
- (2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する。
  - (ア) 教員の指導力、授業力のさらなる向上をめざし、保護者・生徒の信頼に応える。
  - (イ) 規律ある学校生活のもと、自主的・能動的に取り組める生徒を育成する。
  - (ウ) 学力の定着を図る小テスト・確認テストなど適宜実施する。
  
- (3) 生徒個人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う。
  - (ア) 進路指導部と一体になった教員の研究会・講習会参加を通して、十分な情報・知識の習得に努める。
  - (イ) 的確に生徒・保護者に情報を発信し、生徒・保護者の信頼に応える。
  
- (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る。
  - (ア) 欠席・遅刻に対する対応をきめ細かく行う。
  - (イ) 登下校時の合掌・礼拝を励行させるよう心の教育を行う。
  - (ウ) 他に誇れるような、通学時のさらなるマナーの向上を図る。
  - (エ) 常に時間を守ることの大切さを意識させ、基本的な生活習慣の継続・維持を図る。
  
- (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う。
  - (ア) あらゆる機会を通して人権教育・学習を実践し、人権尊重の精神を涵養する。
  - (イ) いじめを許さず、保護者・教員・生徒全員でこの問題に取り組む学校作りを目指す。
  
- (6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる。
  - (ア) 防災体制を十分理解し、生徒の安全管理の徹底を図る。
  - (イ) 防災意識を高める教育を行う。
  - (ウ) 救命講習の機会を定期的に設ける。

## 3. 全項目における目標指数

目標指数（評価点） 4.7以上

※評価点の算出方法：評価点＝5×A 当てはまる（％）＋4×B やや当てはまる（％）＋2×C あまり当てはまらない（％）＋1×D 当てはまらない（％）

平成28年度 本年度の取り組みに対する教師自己評価集計結果と分析

回答教諭人数 : 159名

今年度の重点取組目標 ～Plan～	質問NO	具体的な取組・内容 評価内容 ～Do～	評価点 28年度	A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない				昨年度との関係
				A	B	C	D	
(1) 長和学 をの習 図精や る神様 を学な び体 、験 人 を間 的成 して	1	毎日の学校生活が生徒の心の成長に繋がるよういつも心がけ、はたらきかけている。	4.7	67.3%	29.6%	3.1%	0.0%	新項目学習
	2	授業では生徒が深い関心や興味を持ち成長できるよういつも取り組んでいる。	4.6	67.9%	30.8%	1.3%	0.0%	新項目学習
	3	塔影祭（体育祭・文化祭）や部活動において、生徒の力を十分発揮させることが出来ている。	3.6	27.0%	45.9%	13.2%	13.8%	24, 25 26, 27
	4	和光館における講話を生徒に積極的に聴かせるよう指導できている。	3.5	36.5%	32.7%	12.2%	18.6%	新項目 和の精神 など
	5	生徒会活動や部活動などいろいろな有意義な活動への参加を呼びかけている。	3.6	34.6%	38.4%	14.5%	12.6%	28
(2) 学学 力の喜 を養 成す るを理 解させ 、将来 に力強 く雄飛 し得る	6	授業に際しては十分な教材研究をいつもしている。	4.7	72.4%	26.3%	1.3%	0.0%	31
	7	応用力思考力がつくよう授業にいつも工夫を凝らしている。	4.5	55.1%	41.0%	3.8%	0.0%	37, 38
	8	適宜小テストなど使い学習事項の定着を図っている。	4.0	48.1%	30.1%	14.7%	7.1%	39
	9	授業は規律正しくできている。	4.7	74.4%	24.4%	0.6%	0.6%	35
	10	授業の進度は適切である。	4.6	64.1%	32.7%	3.2%	0.0%	32, 33
	11	生徒一人一人の学習状況をしっかり把握できている。	4.2	30.2%	61.6%	8.2%	0.0%	(41)
	12	副教材など適切に活用できている。	4.5	62.2%	29.5%	3.2%	5.1%	42
	13	遅進者には適切な支援ができています。	3.6	26.3%	48.7%	22.4%	2.6%	40
	14	生徒に能動的な学習に向けたアドバイスができています。	4.4	45.9%	46.5%	7.5%	0.0%	(38) (39) (40)
(3) 行発長個生 う信で性徒 やきを個 教る充々 育情分人 を報伸が	15	生徒の希望、疑問、不安などに対してよく耳を傾け、アドバイスを適切に行っている。	4.5	62.9%	35.8%	1.3%	0.0%	(43), 44 (46)
	16	成績資料や模試結果などを生徒に対して適切に効果的に利用できている。	3.6	28.9%	42.1%	21.4%	7.5%	45
	17	キャリア講座を始め、あらゆる情報を生徒保護者が利用できるよう徹底している。	3.3	29.6%	32.1%	13.8%	24.5%	49, 50 51, 52

## 教師自己評価集計結果に対する分析 ～C h e c k～

### (1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る

**1, 2** について、教師の自覚の高いことが分かるアンケート結果になっているが、生徒学校評価の **5, 6** に関係するところでもあり、その点では教師・生徒間にやや乖離があると言わざるを得ない。が、おそらくこれほどの時代のどの教師にとっても常に意識しなければならないことがらで、決して独りよがりや自己満足に陥らず、常に反省と自戒を持って教職を全うする意識を持たねばならないということであろう。

**3** は昨年度 4.3 で、今年はかなり低くなったが、質問がやや抽象的で、その内容も生徒への働きかけで、手応えのはっきりもてない項目であったため下がったと考えられる。ただし、A,Bの合計は 73%で決して悪くない。

**4** は新項目であるが、学校の建学の精神・和の精神に関わるところであり、A,B併せてほぼ 70%あるとはいえ、事前学習の徹底が必要かもしれない。

**5** は昨年 3.3 で、今年は向上したといえよう。数字としてはまだ低い、A,B併せて 73%になる。

### (2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る

**6, 7** は上記 **1, 2** 以上に生徒学校評価 **5, 6** とリンクするところだが、乖離があると言わざるを得ない。この評価に関しては手前に記した内容と同じである以上に、絶えず努力を必要とするところであり、呉々も「独りよがり」「自己満足」に陥らないよう、いつも真摯な気持ちを持ち続ける必要がある。

**8, 9, 10** は昨年とほぼ同じ高評価。先生方の意識の高さはここでも充分うかがえる。

**11** は昨年の教師自己評価で関連性ある項目を見つけるとすると 4.1 で、4.6 となるが、今年は昨年の質問に比べ抽象的になっているので、数字としてはやむを得ないところがあるか。

**13** は昨年のほぼ同項目が 4.3 であったのに比べると明らかに数字が下がっている。且つCが 22.4%。これは昨年「努力をしている」が、今年度「適切な支援が出来ている」と項目の文言を変えたため、「努力している」のは事実だが「適切な支援が出来」たかと問われると…、と言う自問自答の結果、数字が下がったものと推測される。が、そうであればこそ、教員をバックアップする体制の必要性があると言わざるを得ないのではなかろうか。

**14** は直接比べる昨年の項目がないが、ほぼ同程度と言っているのではないか。

### (3) 生徒個々人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う

**15** は昨年と同じ 4.5 で、昨年と変わらない高評価だが、**16** は昨年の 3.9 でさほど高くないにも関わらず、今年はさらに 0.3 ポイント下がり、あまり高い評価とは言えない。すなわち成績資料や模試の結果がやや「出しゃばり」になっているということであらわしている可能性がある。これは前項目の **13** とリンクすることであるかもしれない、教師に余裕が無くなっていることが危惧され、何か施策が必要なきを迎えている可能性がある。

**17** も昨年の 4.4 であるのに対して 1.1 も低くなってはいるが、これはキャリア講座を進路が主になってやってくれていて、担任、あるいは一教員として、直接的に項目の内容をしていないという気持ちの表れであろうと推測でき、学校組織が有機的に動くものであるという前提に立てば、さほど問題にする必要は無さそうだ。

(4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る	18	正しい制服・頭髪などについてしっかり指導している。	4.1	42.1%	41.5%	11.3%	5.0%	2
	19	欠席・遅刻に対してきめ細かく対応している。	4.4	59.1%	31.4%	6.3%	3.1%	4, 5
	20	登下校時の合掌・礼拝を励行させる指導を行っている。	3.8	40.3%	36.5%	10.1%	13.2%	新項目
	21	通学時の路上や電車内のマナーについて十分指導している。	3.8	35.2%	39.6%	15.7%	9.4%	1
	22	校内美化の徹底を図る指導をしている。	4.2	45.3%	40.3%	9.4%	5.0%	8
	23	常に時間を守る指導を行っている。	4.6	66.0%	30.2%	3.1%	0.6%	12
	24	生徒指導は常に教師全員が情報を共有する意識を持ち、協働している。	4.2	47.2%	34.6%	13.2%	5.0%	11, 13
	25	生徒個々人の状況の把握に努め、必要な場合の指導後は生徒のサポートを十分している。	4.2	47.8%	39.6%	9.4%	3.1%	(3) (5) 9, 10
	26	必要に応じて保護者との連携を十分にとっている。	3.6	44.7%	23.3%	12.6%	19.5%	(6)
(5) うめし育様 るて・々 教数学な 育識習人 をををを 行高通教	27	学級活動・教科活動で人権尊重の意識を高めるようしている。	4.3	51.6%	37.1%	4.4%	6.9%	15, 21 (22) (23)
	28	あらゆるいじめ・ハラスメントを許さない意識を徹底することができている。	4.4	62.3%	30.8%	5.7%	1.3%	16, 17 18, 19 (20)
	29	問題が発生した場合には教員全員で共有し、保護者との連携を強く意識し取り組んでいる。	4.1	49.7%	31.4%	11.9%	6.9%	新項目
(6) さ識安ルマ危 せを全にニ機 る徹の則ユ管 底意リア理	30	生徒への安全管理の広報(AEDの場所・気象警報時の対処など)と徹底を図っている。	3.9	41.5%	35.2%	17.0%	6.3%	53, 55 57
	31	防災意識を高める教育(防災訓練・火災訓練など)を行っている。	4.1	45.9%	35.2%	13.2%	5.7%	54

※ ( )は敢えて関係性を見いだせば  
という意味で ( )を付ける

(本年度の分析結果のまとめと次年度目標へ反映すべき項目) ～Action～

- (一) 教師は「独りよがり」や「自己満足」に陥ることなく常に真摯に自己を見つめ、授業やそのほか生徒に接する場面で常に最良の指導となることを目指す必要がある。
- (二) さらなる遅進者対策が必要と思われる。
- (三) 保護者の立場に立った保護者との意思疎通や連絡と、その為の意識改革を。
- (四) 消火器・AED等の設置場所の周知徹底を。

#### (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る

**18, 19** は当に基本的な生活習慣に関わる項目で、例年に引き続いて同じく高評価である。すなわち指導が出来ているという評価。生徒学校評価にもこれらに対応する項目 **11, 12** を設けたので、そちらで詳述するが、生徒達も同じように出来ているという評価だ。すなわち双方の認識が一致し、たしかに生徒達は基本的な生活習慣を概ね保っていると思われる。

**20** は新設した項目だが、生徒学校評価にも対応する項目を手前二つと同様に設けた。ところが生徒側のなかなかの高評価に対し教師側は意外と低い評価。これはおそらく、個々にどの先生も指導する機会があるわけではないことに起因していると考えられる。しかし生徒の高評価は、学校の基本理念を生徒達がしっかり理解しているからと言え、これはなかなか頼もしいかぎりだ。

**21** は昨年並みの評価点だが、とにかく **4** を割り込む。なかなか手の届かないところの指導で難しいが、日常的に苦情の電話があることに思いを致せば、さらに努力が必要なようだ。

**22** の校内美化、**23** の時間を守る指導とも昨年並みの高評価。生徒学校評価にも今までからある項目で、生徒側も一致する高評価。これを続けたい。

**24, 25** は教師側の生徒指導面で生徒と接する態度ということになる。ほぼ前年同様で満足のいく評価点ではあるが、生徒側の受け止めは、生徒の項目 **23** ということになる。やや隔たりがある。推測される理由は生徒学校評価で記す。

**26** に関して、昨年までの項目は風紀上で保護者との連絡に限定していたので **4.4** と高い評価だが、今年は風紀にとどまらずあらゆる面という含意ある項目で、その点、評価がやや低くなったようだ。しかし、すると連絡はまだ十分とは言えず、C,D併せて **30%** を超える点からも教師の意識改革が必要なようだ。

#### (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う

**27, 28** は生徒学校評価の **19** と関連する人権教育・意識に関わる問。教師側・生徒側ともほぼ同数値の評価で高いが、ただしC, Dが **0%** になるべき項目と言え、さらなる教師の努力が求められる。

**29** は新しく設けた項目である。4 ポイントを越えるとはいえ、幸い機会が少ないためということがあるかもしれないが、B以下の数字が気になるところ。

#### (6) 危機管理マニュアルに則り安全の意識を徹底させる

**30** は生徒学校評価の **30** に対応するが、教師側 **3.9** とさほど高くなく、それ以上に生徒側が高校 **3.2** 中学 **2.3** とかなり低い数字にとどまる。これは問題があると言わざるを得ず、防災器具の場所を周知徹底する機会を設ける必要がある。

**31** の防災意識の教育は、生徒学校評価の **29** と関連するが、どちらももう少し高いに越したことはないが、一応機能しているといえよう。

## 平成28年度 生徒学校評価アンケート集計結果と分析

実施学年：高校二年 回答人数491名 中学二年 回答人数287名

指標の計算式：1の人数割合×5+2の人数割合×4+3の人数割合×2+4の人数割合×1

A:はい B:どちらかといえばはい C:どちらかといえばいいえ D:いいえ

※指標の数値が高いほどその項目について望ましい評価であるが、一部項目（12, 19, 23, 26, 35）については数値が低いほどその項目について望ましい評価であることにご留意ください。

NO	質 問		合計	A	B	C	D	昨年度との関係
1	学校では何事にも前向きに取り組んでいますか。	高校	4.0	36.0%	50.5%	10.4%	3.1%	1,14
		中学	4.1	36.9%	53.0%	8.0%	2.1%	
2	学級活動や学校行事、また部活動に積極的に取り組んでいますか。	高校	4.3	49.1%	38.9%	8.8%	3.3%	15, 16 (28)
		中学	4.3	51.9%	39.0%	7.3%	1.7%	
3	予習・復習等は十分していますか。	高校	<b>3.3</b>	11.2%	50.9%	31.4%	6.5%	2
		中学	<b>3.5</b>	13.2%	53.3%	28.2%	5.2%	
4	課題や宿題はきちんと提出していますか。	高校	4.1	43.2%	39.1%	13.8%	3.9%	3,(4) (5)(11)
		中学	4.2	48.4%	36.6%	12.5%	2.4%	
5	どの授業もわかりやすいですか。	高校	<b>3.2</b>	8.8%	52.3%	28.5%	10.4%	6 (9)(10)
		中学	<b>3.6</b>	16.7%	62.0%	17.4%	3.8%	
6	どの授業も教え方に工夫があり楽しいですか。	高校	<b>3.1</b>	8.4%	47.9%	34.8%	9.0%	7,(8)
		中学	<b>3.3</b>	12.5%	51.9%	31.0%	4.5%	
7	和光館における講話をしっかり聴いていますか。	高校	<b>2.7</b>	12.8%	28.9%	33.6%	24.6%	新項目
		中学	<b>3.5</b>	30.0%	38.0%	20.6%	11.5%	
8	自分の進路に関してしっかり考えていますか。	高校	4.2	50.1%	37.1%	9.6%	3.3%	29
		中学	3.5	30.7%	32.1%	27.9%	9.4%	
9	進路について先生とよく相談していますか。	高校	2.2	10.6%	18.7%	31.4%	39.3%	(30),31 (32)(33)
		中学	1.7	3.1%	9.1%	26.5%	61.3%	
10	進路について保護者の方とよく相談していますか。	高校	4.1	47.7%	34.2%	11.2%	6.9%	31
		中学	3.5	26.8%	39.0%	23.0%	11.1%	
11	正しい服装や髪型を心がけていますか。	高校	4.3	58.0%	32.6%	6.5%	2.9%	新項目 教員自己 評価に対応
		中学	4.7	74.2%	22.3%	2.8%	0.7%	
12	安易な遅刻や欠席をしないよう心がけていますか。	高校	4.6	77.2%	14.9%	5.3%	2.6%	新項目 教員自己 評価に対応
		中学	4.7	85.4%	10.8%	2.1%	1.7%	
13	登下校時の慈母観音様への合掌礼拝を励行していますか。	高校	4.6	77.6%	14.9%	4.5%	3.1%	新項目 教員自己 評価に対応
		中学	4.8	83.3%	11.8%	4.2%	0.7%	
14	登下校時のマナーに気をつけていますか。	高校	4.6	63.1%	32.4%	3.7%	0.8%	(45),46
		中学	4.5	61.7%	33.4%	3.1%	1.7%	
15	教室の整理整頓・美化に努めていますか。	高校	3.9	36.0%	45.2%	14.1%	4.7%	17
		中学	4.0	35.5%	47.0%	15.0%	2.4%	
16	授業の始まりなど、時間を守るよう心がけていますか。	高校	4.6	57.0%	38.9%	3.3%	0.8%	新項目 教員自己 評価に対応
		中学	4.5	57.1%	36.6%	5.6%	0.7%	
17	クラスやクラブ活動でいじめを感じたことがありますか。	高校	1.3	1.4%	1.4%	10.6%	86.6%	19
		中学	1.4	2.1%	6.3%	16.7%	74.9%	
18	(17)でいじめを感じたことがあると答えた人だけ答えてください。それは解消されましたか。	高校	3.3	57.1%	0.0%	0.0%	<b>42.9%</b>	20
		中学	3.2	54.2%	0.0%	0.0%	<b>45.8%</b>	

## 生徒学校評価アンケート集計結果に対する分析

**1** は昨年まで「学校は楽しいですか」という質問であったが、今年は「前向きに取り組んでいますか」という質問に替えてのアンケート。昨年の 4.3 から中高とも低くなっているが、質問内容の変更から来るものであろう。ただし A, B 併せて中高とも 90% 近くあり、本校の生徒の心意気が感じられるところだ。 **2** についても **1** に同じといえるようだ。

**3** は **4** に比べてやや低い。また C の割合が高いことにも注目する必要があるようだ。課題提出より予習復習の自学自習が、何に手を付けていいか分からないと言うことに、原因が一つあるかもしれない。ただし、多くの教師が予習復習に当たる課題を出しているのも事実で、その辺りはカバーされているといえようが、2020 年度入試などを見据えたこれからの教育のあり方を考えると、予習復習に代表される自学自習の指導も課題となってくるようだ。

**5, 6** に関して、具体的には個々の先生の授業評価に譲るが、全般として言えることは、教師自己評価の項でも取り上げたが、教師側の認識との乖離が見られる。これは一つには教師の項で述べたが、教師が「独りよがり」「自己満足」に陥っている可能性があり、また努力不足も指摘されるべきであろうが、生徒の項目 **3** の予習復習が十分でないということも関連していると言うべきであろう。生徒に限って今言えば、分かろうとする努力も必要と言うことであり、生徒の学習に対する姿勢を正していく必要があるようだ。

**7** は建学の精神・和の精神を伝えるという意味でも必要な項目と、新設した。教師側にも対応する項目を設けた。アンケート点はしかし低い。これは生徒の姿勢を問う前に、事前学習が必要ということでは無かろうか。来年度以降考える必要がある。

**8** の解答は前年度並み。当然かもしれないが、中学はやや低い。

**9** は **10** と併せて分析すると、昨年の 31 に相当するが、教師と保護者と分けて質問した結果、見えてきたことからは、やはり家庭での相談が多くを占めていると言うことだ。決して悪いことではなく、本校にあってはご家庭がそれだけ子供の進路をよく考えていると言うことであろう。それにつけても、我々教員は家庭との連絡を密にする必要があるということだ。

**11, 12, 13, 16** は教師の項目と対応して新設した項目。教師の項目でも述べたが、概ね良好である。言うまでもないが本校では「真面目」な生徒が非常に多いということだ。

**14** は教師の項目の回答より非常に良い値が返ってきている。しかし、残念ながら苦情もあると言うことはほとんどの生徒はよく心がけてくれているが、一部不届き者がいるということになる。これも皆無にする努力が教師に求められているということであろう。

**15** 整理整頓・美化に関しても、教師の目にはまだまだと感じられることもあるが、多くの生徒はしっかりやっていると自覚がある。その意識をさらにしっかり高めていく必要があるようだ。

**17, 18** において、**18** で D の「いいえ」答えた生徒が、昨年の比率よりは低い、あるということ自体が問題である。「いじめ」に関するアンケートを毎年実施しているが、早急に対応する必要がある。

19	あらゆる場面で人権尊重の意識を持って行動していますか。	高校	4.2	42.6%	47.5%	7.7%	2.2%	(47)
		中学	4.1	38.0%	49.8%	9.1%	3.1%	
20	先生からハラスメントと感じることを受けたことがありますか。	高校	1.7	7.7%	7.7%	20.6%	64.0%	(12)(13) (18)((21)) 23
		中学	1.6	5.2%	6.6%	14.3%	73.9%	
21	校則は守っていますか。	高校	4.3	49.7%	42.2%	4.9%	3.3%	24
		中学	4.6	63.4%	32.4%	2.8%	1.4%	
22	校則に改善すべき点があると思いますか。	高校	4.0	55.6%	19.6%	14.1%	10.8%	(25),26
		中学	3.4	36.2%	26.1%	18.1%	19.5%	
23	悩み事があった場合、先生やカウンセラーと相談していますか。	高校	1.5	5.9%	5.5%	14.3%	74.3%	21,(22) (36)(37) 38,(39)
		中学	1.5	4.5%	5.2%	13.9%	76.3%	
24	自分自身の健康管理（食事・睡眠など）に注意していますか。	高校	3.9	35.6%	42.4%	18.5%	3.5%	34,(35)
		中学	3.9	38.0%	40.8%	13.6%	7.7%	
25	構内の食堂や購買をよく利用しますか。	高校	3.0	21.6%	24.4%	33.8%	20.2%	40
		中学	3.0	22.3%	27.9%	30.7%	19.2%	
26	図書室をよく利用しますか。	高校	2.0	12.6%	11.2%	23.0%	53.2%	41
		中学	1.9	10.8%	10.1%	20.6%	58.5%	
27	自習スペースをよく利用しますか。	高校	2.2	18.5%	11.2%	19.6%	50.7%	新項目
		中学	1.9	7.7%	12.2%	18.5%	61.7%	
28	構内の施設は充実していると思いますか。	高校	2.7	10.0%	34.2%	31.6%	24.2%	42
		中学	2.7	10.5%	28.9%	34.8%	25.8%	
29	防災訓練にまじめに取り組んでいますか。	高校	3.8	28.5%	50.3%	13.8%	7.3%	44
		中学	4.0	40.4%	42.9%	11.5%	5.2%	
30	校内にある防災器具(消火器)や救命器具(AED等)の場所を知っていますか。	高校	3.2	21.4%	35.0%	26.7%	16.9%	43
		中学	2.3	12.9%	20.6%	24.4%	42.2%	

( 本年度の分析結果のまとめと次年度目標へ反映すべき項目 )

本来は高校・中学でそれぞれにまとめが必要だが、評価ポイントの数字を見ると分かるように、どの項目も高校・中学でほぼ同じような数字。差のある項目は皆無である。したがって高校・中学を総じてということでもまとめたい。

- (一) 3 の予習復習の少なさは、5, 6 の低さにも繋がっている可能性があり、予習復習の大切さを生徒に自覚させる指導が必要である。
- (二) 7 に関しても、項目で指摘したが、事前学習など、その場でおしまいにならない取り組みが必要なようだ。
- (三) 「いじめ」「ハラスメント」については、早急な対応が必要である。
- (四) 28 施設の充実に関しては、項目で記したように、あらためて不足なのか更新なのか、質問し直す必要が感じられるが、生徒・保護者のニーズを探っていく必要がある。
- (五) 構内の防災器具(消火器)や救命器具(AED)など、あらためてその場所の周知徹底が必要である。これも急がれる。

19 は教師自己評価 27, 28 で記したことがらになろう。

20 は数字が低いとは言え、ハラスメントを感じている生徒がいるということで、これは「いじめ」のアンケートの取る折に同じく調査する必要があるのではないか。

21 「校則を守っていますか」は、昨年中高とも 4.1 で、今年度は中高とも、特に中学がかなり向上している。いわゆる「真面目」な生徒が増えたと言うことか。したがってと言えは言い過ぎだが、22 の数字は低下。生徒に問題意識は持ってもらいたいが、取り敢えず良好というところか。

23 は、昨年対応する項目が「先生」だけであったところに「カウンセラー」も入れたのだが、このためか、よりカウンセラーに重きを置いた回答になったようだ。昨年の 38 と同じ結果になっている。来年は戻して「先生」「カウンセラー」別々に尋ねる必要があるそうだ。

25 の中高とも昨年より 0.2 ポイント増え、これは自習スペースとしての利用が増えたからと推測できる。

同じく 26 の図書室の利用も高校においては前項と同じ現象といえよう。中学の 0.2 ポイントの減少も実は同じく自習スペースの関係と推測され、2号館4階の図書室に行くよりは食堂自習スペースを利用する方が近いということだと思われる。

27 は自習スペースの拡充を受けて設けた新項目だが、25, 26 対応したポイント数になっているといえそう。数字自体が若干少ないのが気になるところだが、%から実際の実利用人数を考えると、かなりの利用があるとも言える。28 は、中高の総合で考えると昨年並み。やはり低いと言わざるを得まい。ただし、項目の文言は昨年とまったく同じなのだが、「充実していない」のならば、それは必要な施設が足りないのか、または老朽化し、更新が必要と感じているのか、この辺は来年の項目に反映させて探る必要があると考えている。

29 は昨年より中高とも 0.3 ポイント上昇している。真面目に取り組んでくれている。30 は、昨年「あるのを知っていますか」という質問内容であったものを、今年はある「場所を知っていますか」と変えたが、途端に高校 1 ポイント、中学は 2 ポイント下がってしまった。教師自己評価のところでも述べたが、早急に場所の周知徹底を図る必要がある。ところで、この昨年からのポイントの低下だが、実に興味深いことが分かる。それは、生徒達はきっちり質問項目を読み取って真面目に答えてくれていると言うことで、あらためて生徒達の真面目さを感じた次第だ。

## 平成28年度 学校関係者評価

四天王寺高等学校・四天王寺中学校 後援会  
会長 藤野 正勝

本年度の学校関係者評価は下記の通りです。

まず、報告書そのものが昨年度に比べ簡潔になった印象を受けました。実際、質問項目が教職員対象の質問が57項目から31項目へ、生徒対象の質問が47項目から30項目へと約3割減となっています。これは学校評価委員会 川淵委員長の説明の通り、過去の質問項目を精査・集約され、類似質問の重複を割愛された結果です。減らすだけではなく新項目の追加もなされており、現状に即した質問内容で回答者の負担を減らし、効率的かつ効果的な調査・分析を行う方針が伺えました。

次に、可能な限り教職員と生徒に共通する質問項目を追加し、質問の文言を変え、質問順を四天王寺高等学校・四天王寺中学校の教育目標に沿った形に並べ替えたりと、随所に工夫が見られました。従来を踏襲するのではなく、本来の目的である「PDCAサイクルによる継続的改善」のために、より良い方法を模索されていることが伝わってきました。「PDCAサイクル」がアンケートにおいても機能していることを、本年度報告書から確認することができました。

見開きで集計結果と分析が左右のページに配されているので、非常に見やすかったです。個々の質問項目への分析については、概ね「厳しい目」をもって記述されていたと思います。教職員と生徒の相関関係が深い質問もあるので、今後、例えば教職員と生徒の意識の違いが明らかになるような、もう少し双方の関係性が分かり、対比できるようなまとめ方を別項目で作製していただければ有り難いです。それによって「独りよがり」や「自己満足」の度合いが浮き彫りになるのではないのでしょうか。

159名の教職員・778名の生徒と膨大な対象者数に上るため、実現するのは困難かもしれませんが、あくまでも要望として自由に記載できる小欄を設けていただきたいです。教職員・生徒いずれからも、定量的な分析だけでは分からないものが見えてくると考えます。

最後に、よりよい学校づくりのために現状に満足せず、継続的改善を図るべく様々な検討を行い、改善策を迅速に実行される四天王寺高等学校・四天王寺中学校の教職員の方々へ感謝申し上げるとともに、今後のさらなる飛躍を保護者一同、大きく期待申し上げます。よろしく願い申し上げます。